

2021年11月22日

コロナ禍で変わる生活者の暮らしを当社が調査・研究
『家事楽レポート 2021』から見た生活動向
～家事をこなす時間が増えた一方で、家事量やイライラも増加～

パナソニック ホームズ株式会社 暮らし研究室では、コロナ禍の 2020 年に、生活者の暮らしの実態をはじめ、ニーズやお困りごとについて調査を実施し、商品開発や営業活動用資料の『家事楽[※]レポート 2021』として発行しています。 ※「家事楽」はパナソニック ホームズ株式会社の登録商標

『家事楽レポート 2021』では、「新しい生活様式での家事」に焦点を当てて、コロナ禍における生活や時間の使い方の実態について調査。新しい生活様式を経て、意識が変わったことと変わらないことが見えてきました。

他にも、一般生活者や当社の共働き社員を対象とし、家事に関する要望やコロナ禍を機に変わりつつある家事の状況について、幅広く情報収集を図っています。

当社では、『家事楽レポート 2021』の結果を基に、空間・アイテムの工夫で、ニューノーマルな“家事楽”の暮らしを提案し、より一層暮らしやすい住まいやプランの新開発に繋げていきます。

当プレスリリースでは、『家事楽レポート 2021』のダイジェストや、調査・研究から新しく提案した、ニューノーマルな“家事楽”の暮らしについて紹介します。



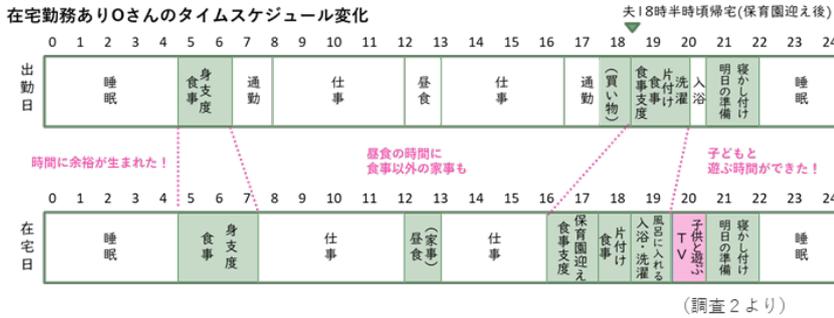
ニューノーマルな“家事楽”の暮らし 提案例「ふれ愛キッチン」

◆ 『家事楽レポート 2021』 結果要約・調査概要

- 家事に関する意識について、3つの変化と2つの変わらないこと

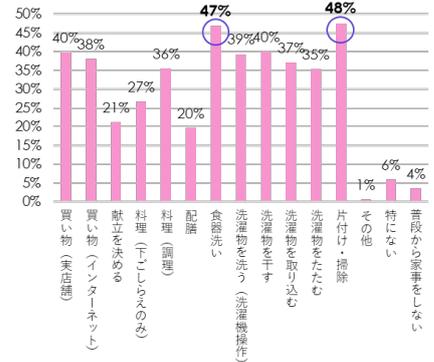
<変わったこと>

平日、在宅勤務の隙間時間を使って家事をこなす



隙間時間でこなす家事は
片付け・掃除/食器洗いが**45%**を超える。
洗濯関連も**3**人に**1**人は行っている。

テレワーク（在宅ワーク）の隙間時間で行っている家事



(調査4より) 自宅でテレワークを実施している/実施したことがあると回答したn=442 複数回答



在宅ワークで生まれた時間には、洗濯機を回したり、掃除機をかけたり、ご飯の仕込みを行っており、仕事の合間にも少し家事をしている。

(Oさん/35歳女性)

(調査2より)



在宅時は仕事を前倒しし、夜にできた時間を家事や子どもとの時間に当てている(食事支度、入浴や寝かしつけ)

(Sさん/30代男性)

(調査1より)



昼食の際に夕飯の下準備など効率的に家事が回せる

(Aさん/30代女性)

(調査1より)

【コロナ禍前】

朝の出勤前や夜の帰宅後、短い時間に最低限の家事をこなす

【コロナ禍】

在宅勤務で不要になった通勤時間や仕事の隙間時間を使って家事をこなす

1. 在宅時間の増加とともに家事の時間は増加傾向

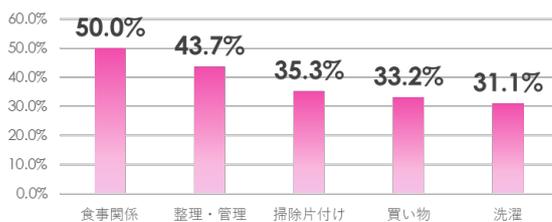
在宅時間が増えると時間に余裕はできたが、家事をする時間も増えたと感じる人が大半。食事については準備や調理時間も増えたが、食品のストック管理や整理も増えている。

家事を主に担っている人(家事負担が60%以上)の

80%は増えた家事があり

特に**食事関係**は**2**人に**1**人が感じている

緊急事態宣言前と緊急事態宣言の解除後の現在の生活を比べて増えた家事は？



(調査3より) 家事負担率60%以上と回答したn=191 複数回答

増えた家事の時間...なにが増えた？

食事の準備や調理時間が増えた

88.4% (家事負担率60%以上で増えた家事を食事関連と回答した人 n=95)

食品のストック品の管理や整理が増えた

73.5% (家事負担率60%以上で増えた家事を整理・管理と回答した人 n=83)

普段は行っていない掃除や片付けが増えた

82.1% (家事負担率60%以上で増えた家事を掃除片付けと回答した人 n=67)

洗濯の回数が増えた

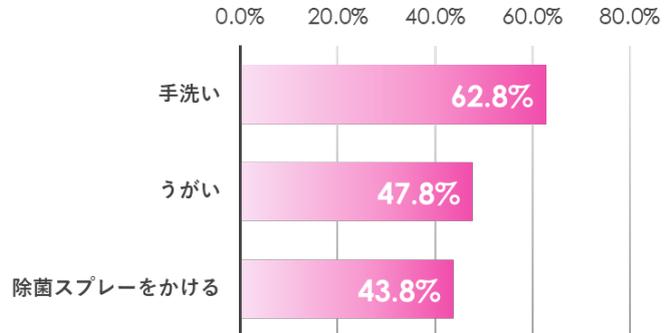
71.2% (家事負担率60%以上で増えた家事を洗濯と回答した人 n=42)

2. 手洗い・除菌スプレー等清潔に関する行為が増えた

コロナ禍前も、手洗い・うがい・除菌スプレーをかける等の行為は行っていた人が多いが、半数前後の人がコロナ禍前より行うようになったと回答。

コロナ禍前より手洗いは6割以上の人が行うようになり除菌スプレーも4割以上の人を使うようになった

日々の生活でコロナ禍前より行うようになったことは？



(調査3より 複数回答)

<変わらないこと>

1. 間取りで特に不便を感じる家事は洗濯関連

洗濯に関する不便を感じる人が多く、特に洗濯機と室内干しとしまふ場所との動線で上下階を移動している人からの声が多く見られた。

あなたが家事をする際に
不便を感じる場所がある

61.5%

(調査3より 単一回答)

約4人に1人は
洗濯に関することに不便を感じている

不便を感じる場所や内容は？

1位 洗濯に関すること

27.1%

2位 収納に関すること

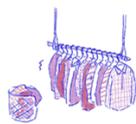
14.7%

3位 キッチンに関すること

14.1%

(調査3より 自由回答)

洗濯物を干す場所が足りない！



外にはあまり干さず部屋干しをしているので、今まで以上に洗濯する回数が増えていて、干すスペースが足りなくて不便に感じている。

(34歳・女性/子ども未就学児)

(調査3の自由回答より)

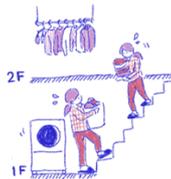


洗濯物を干す場所がなくてリビングで部屋の間仕切りにハンガーをかけながら干している。

(32歳・女性/子ども未就学児)

(調査3の自由回答より)

1階2階の移動がスムーズな洗濯の妨げになっている



今は1階で洗濯、2階に干す、ただ後1、2階に収納しているので洗濯も衣類収納も同じフロアで完結したい

(38歳・女性/子ども未就学児と小学生)

(調査2より)

1階で洗濯機をまわし、乾燥をかけないものは出して2階に持って上がってベランダに干すが、もし干すのも1階で完結すればもっとスムーズだろうと思う時がある。

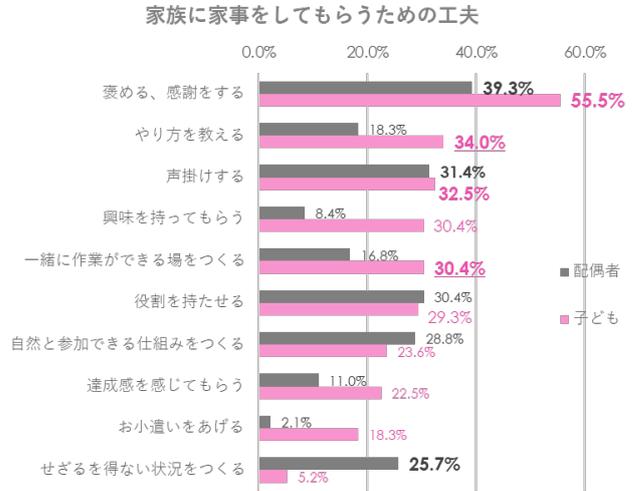
(38歳・女性/子ども未就学児)

(調査3の自由回答より)

2. 家族みんなが家事をやるには「感謝」や「声かけ」等、コミュニケーションが変わらず大切

お互い家事を教えあったり、感謝を言葉にしたり、気持ちよく家事ができるようにコミュニケーションは必須。

子どもにはコミュニケーションと共に「やり方を教える」「一緒に作業のできる場所」等親子一緒に取り組みができることも重要



(調査3より 家事負担率60%以上と回答した n=191 複数回答)

● 家事に対する気持ちや思いについて

家事は、「辛くて苦しいもの」「面倒なもの」というイメージが先行しますが、今回の調査では、家事に対して前向きにとらえる意見も多くありました。家事に対する様々な気持ちを4つに分類してご紹介します。

分類1 気分転換

気分転換のために家事をする人が半数以上いました。家族みんなで家事をしながらリフレッシュする人や、1人でピカピカに掃除をしたり好きな音楽を聴いたり、家事への取り組み方が柔軟になってきています。

リフレッシュできたり、気分転換になるような家事がある
(本調査である調査3の対象条件を基に無作為抽出した400名に絞る前の事前調査に回答した n=約10000 単一回答)

53.8%

あなたにとって家事とは？ (調査3より 自由回答)

- 家族が快適に過ごせるため、自分の気分転換のため、心地よい空間を作る楽しさ、できることは家族で分担、適度に手をぬけるとこは抜くなどして過度な負担にならないように工夫するもの。(45歳・女性/子ども小学生)
- 家事は生きるために必要なこと。時に面倒に思うこともあるが楽しみながら行うことで気分転換をすることができる。(31歳・男性/子ども未就学児)

気分転換になる家事は？ (調査3より 自由回答)

- 料理 **36%**
- 掃除片付け **21%**
- 洗濯 **15%**

洗濯乾燥機を寝る前にかけて朝、洗立ての洗濯物の匂いを嗅ぐと、朝の憂鬱な気持ちが少し和らぐ。(27歳・女性/子ども未就学)

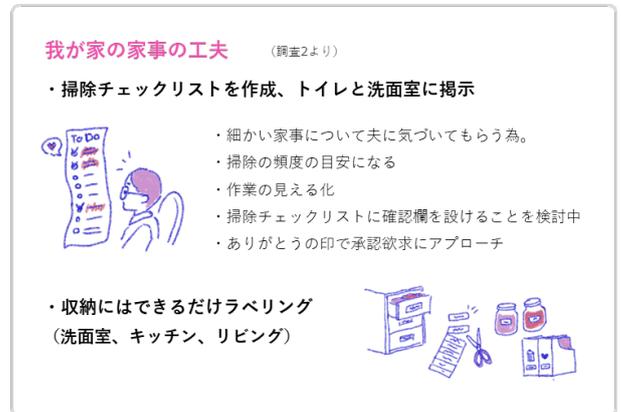
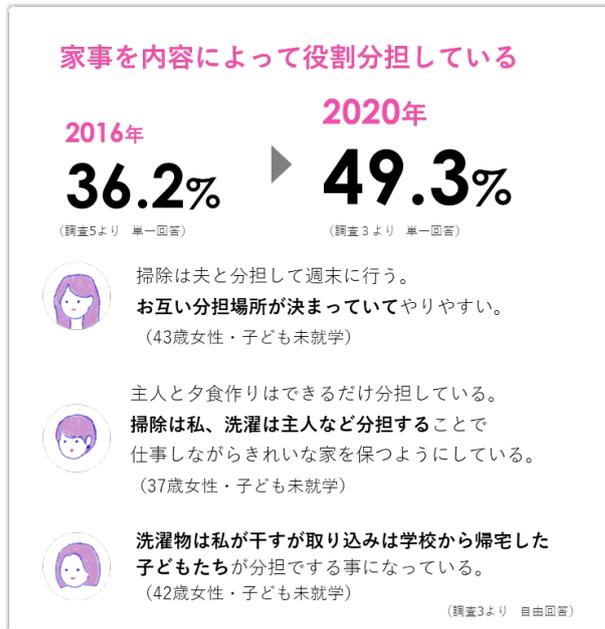
自分の中で先輩と新人を演じる。この部屋の掃除のポイントは...とか独り言を言いながら家事をする。(39歳・男性/子ども未就学)

食事の用意と掃除。携帯音楽プレイヤーでリズム良くこなす。(41歳・男性/子ども小学生)

※調査3で無作為抽出した400名を絞る前のスクリーニング調査期間に回答した約10000人の回答

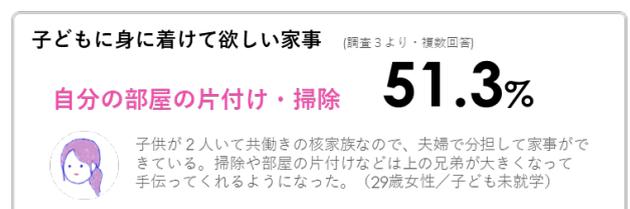
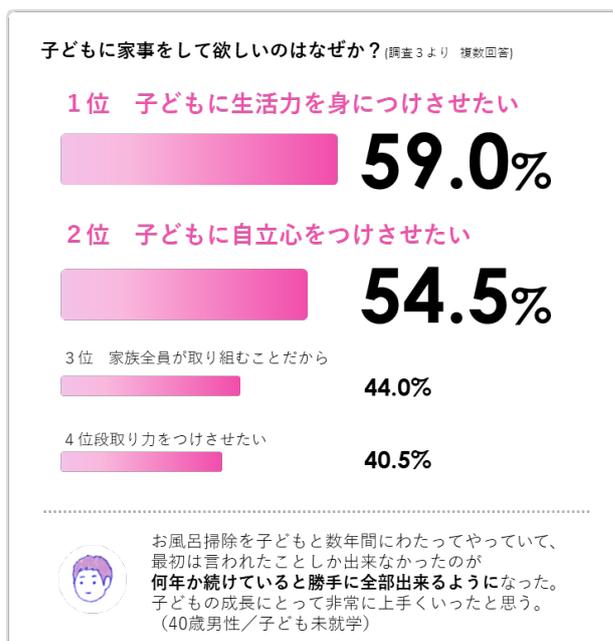
分類2 分担・工夫

家事を役割分担していると回答した人が約半数いました。前回(2016年)の調査と比べると上昇傾向が見られます。「どのように分担しているか」についての自由回答でも、具体的なやり方を答えている方が多く見られました。



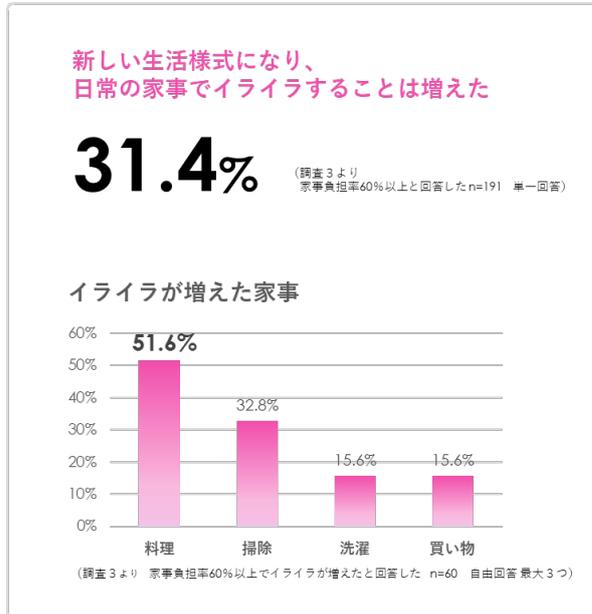
分類3 成長

家事は子どもの生活力や自立心をつけるために必要だという声もよく見られました。覚えて欲しい家事については前回(2016年)の調査と変わらず「自分の部屋の片付け・掃除」がトップでした。



分類 4 イライラ

家族の在宅時間が増えて家にいるため、家事が思うように進まない等、イライラする気持ちも垣間見えました。



料理のこんなことでイラッ (調査3より自由回答)

- リクエストが増えた
- **自宅での食事が多く作るのが大変**
- 普段はいない時間帯にいる夫が、どう考えても眠そうなのに一切食卓にお皿を運ぼうとしない
- 気分転換に外食をしていたのに全く出来なくなったので**休息がなくなった**
- 外食が減って**食事の準備が増えた**

掃除のこんなことでイラッ (調査3より自由回答)

- 家にみんながいる時間が多くなった分家事がふえる
- **掃除してる時にソファからどかない**
- 家族が家にいることが多いので髪の毛や埃などが多い
- 家にいる時間が増えて散らかる
- 在宅時間が増え、**家が直ぐに汚れるから掃除頻度が上がった**
- 普段使わない部屋の掃除が増えた

【調査概要】

調査1. 夫婦での家事の取り組み状況に関する当社社員グループインタビュー
 実施時期 : 2020年7月
 対象者 : 30代、40代子育て社員
 サンプル数: 8名

調査2. 在宅勤務共働き家族の家事に関するオンライン訪問調査
 実施時期 : 2020年9月
 対象者 : 一般の在宅勤務をしている30、40代共働きママ(子持ち)
 居住形態 : 戸建住宅
 対象エリア : 東京・神奈川・愛知
 サンプル数 : 3名

調査3. 新しい生活様式の中での家事の実態に関するアンケート調査
 実施時期 : 2020年9月
 対象者 : 一般の30~40代ママ・パパ(フルタイム共働き・子持ち)
 居住形態 : 戸建住宅
 対象エリア : 全国
 サンプル数 : 400名

調査4. テレワーク(在宅)に関する暮らしのアンケート調査
 実施時期 : 2020年6月
 対象者 : 25歳~44歳
 居住形態 : 持ち家(戸建)・持ち家(集合)・賃貸(戸建)・賃貸(集合)
 対象エリア : 首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)
 サンプル数 : 1,052名

調査5. 2016年調査概要

- 実施時期 : 2016年5月
 居住形態 : 戸建て
 対象者 : 一般の20~40代 ママ・パパ
 (夫婦共に週30時間以上の勤務・子有り)
 対象エリア : 全国
 サンプル数 : 計1,080名

調査主体 : パナソニック ホームズ株式会社 くらし研究室

◆ ニューノーマルな暮らし方の“家事楽”について

当社はコロナ禍で実施した生活調査結果をまとめた『家事楽レポート2021』を基に、“ニューノーマルな暮らし方の家事楽”として整理。従来の提案の中でも特に、4つの空間について強化提案しています。この提案は、営業や設計活動において、お客様ごとに異なる暮らしのニーズやお困りごとに対応する当社のノウハウとして、今後もより一層の現場活用とレベルアップを図っていきます。

① ふれ愛キッチン



キッチンだけでなく
 カップボード、パントリー、
 冷蔵庫の配置も組み
 合わせたキッチンのまわりの
 トータル提案です

← パントリー → ← カップボード → ← 冷蔵庫 →



■ 料理と洗濯が両立する

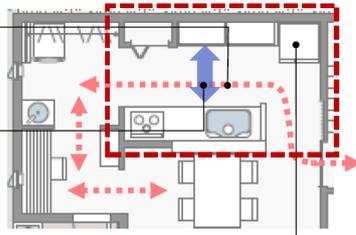
動線計画に

ながら家事やすき間家事をストレスなく
 すすめるために、キッチンと
 洗濯・物干しスペースの配置を考える

■ 狭すぎず・広すぎない

通路の確保で調理をしやすく

キッチンの通路は1050mm程度は確保
 複数人キッチンに立っても邪魔にならず
 家族がキッチンに入りやすくする



■ 冷蔵庫は

ダイニングから近い位置に

キッチンの奥ではなくダイニングから近い位置にする
 調理作業と重ならないように邪魔せずに飲み物や食べ物が取りに行ける
 (調理不要で食事で使う、飲料、アルコール、調味料、氷、デザートなど)

② 家事楽ドライピット



室内干しができる空間を
 あらかじめきちんと確保
 しておく提案です

洗面室や和室だけでなく出来る
 だけ小さくても専用のスペースを
 確保します

③ シューズインクローク



帰宅時の手洗いと
 服の収納に配慮した
 シューズインクロークの
 提案です



■ 大きくとれる場合は

裏動線を確保する
 普段の靴の脱ぎ着をすれば
 玄関は靴であふれることなく片付く

■ 手洗い洗面や外出着を
 掛けるスペースを設ける
 ミラーやタオルリング、
 ハンガーパイプも必須アイテム

■ 宅配ポストを設ける
 壁付けタイプならSIC内で
 取り出しや保管、段ボールの
 片付け可能



④リビング収納



LDKまわりとストック品の
リビングの収納提案です

従来の分散型収納に加え一目で
定位置が分かりやすいように1カ所に
集中した大型収納も提案します



家の真中に
“リビング収納”

◎「家事楽スタイル」の詳細はこちら

<https://homes.panasonic.com/common/kajiraku/>